

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

6年生が行った、全国学力・学習状況調査の結果について、本校の傾向をお知らせいたします。

【国語】

全体的にみると、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の平均正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

①内容について

- ・3つの内容全てにおいて、下回っている。・「読むこと」が、-22.1と著しく下回っている。

②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-31.6と著しく下回っている。

【算数】

全体的にみると、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

①内容について

- ・5つの内容全てにおいて、下回っている。・「測定」が、-23と著しく下回っている。

②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-36.1と著しく下回っている。

【理科】

全体的にみると、短答式を除き、全国・県の平均値を下回る結果となりました。全国の正答率を100とした場合の相対値は以下の通りとなります。

①内容について

- ・4つの内容全てにおいて、下回っている。・「地球を柱とする領域」が、-15.6と著しく下回っている。

②問題形式について

- ・3つの形式全てにおいて、下回っている。・「記述式」が、-25.5と著しく下回っている。

3教科を通し、記述の面で課題が見られたため、今後も授業中に自分の考えをノートに書く時間を設け言葉や文章にするだけでなく、図などで表現するなど、実態に応じて書く活動を多く取り入れていきます。

【質問紙調査】

教科を中心とした学力・学習状況調査では、県平均値及び標準偏差をもとに算出した偏差値から見ると、「主体的・対話的で深い学び」が-0.21、「ICTを活用した学習状況」が-0.24と低くなっています。

本校児童は自己有用感が高く、児童は社会や家庭・学級の一員として居場所を感じ、誰かのために頑張りたいと思う気持ちや、行事を通して達成感を味わうことができていることがわかりました。その他の学力・学習状況においては、「学習習慣」が-0.42と低い結果となっています。

今後の対策として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教職員の個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた意識及び授業改善が必要となります。研修等を通して指導改善を図っていきます。

学習習慣につきましては、家庭での携帯やゲームとの関わり方、学習時間の確保についてお子様とお話しいただければと思います。その際は、年度初めに配付いたしました「家庭学習の手引き」をご活用ください。保護者の皆様のご協力よろしくお願ひいたします。